

別紙1

副作用確認システムに関する調査 ー患者編 (WEB調査)ー

No	該当回答者	設問項目	回答形式	回答選択肢
1	全員	あなたは過去1年間に薬を服用したことがありますか。	ラジオボタン	1 はい 2 いいえ
1	全員	あなたの年代(年齢)についてあてはまるものをお選びください。	ラジオボタン	1 55歳～60歳 2 61歳～65歳 3 66歳～70歳 4 71歳～75歳 5 76歳～80歳 6 81歳以上 7 その他
2	全員	あなたの居住地域をお選びください。	プルダウン	都道府県
3	全員	あなたのお住いの近く(徒歩圏内)に医療機関または薬局がありますか？	ラジオボタン	1 医療機関(病院やクリニック)がある 2 薬局がある 3 医療機関も薬局もある 4 どちらもない
4	全員	あなたの職業について当てはまるものをお選びください	プルダウン	1 会社員 2 会社経営・役員 3 自営・自由業 4 団体職員 5 派遣社員 6 パート・アルバイト 7 専業主婦 8 無職 9 その他
5	全員	あなたの生活環境について、あてはまるものをお選びください。	ラジオボタン	1 独居 2 同居人あり 3 高齢者用施設に入居 4 医療機関に入院 5 その他
6	全員	日頃の服薬の状況にあてはまるものをお選びください。	ラジオボタン	1 できるだけ薬は飲まないようにしている 2 過去に定期的に服薬をしていたことがあるが、現在は必要な時だけ服薬している 3 慢性的な病気があり、定期的に服薬している薬がある 3 慢性的な病気があり、定期的に服薬している薬がある
7	全員	過去1年間にどのような薬や健康食品を飲まれましたか。あてはまるものすべてをお選びください。	チェックボックス	1 病院やクリニックなどでもらう薬、薬局に処方せんをだしてもらう薬(薬袋にはいつている薬) 2 薬局で購入する市販薬(バブロン、太田胃酸、養命酒、救心、目薬、軟膏など箱に入っている薬) 3 スーパー、コンビニエンスストアで購入する市販薬(胃薬、消化薬など) 4 配置薬(家庭常備薬) 5 サプリメント、健康食品(皇潤、コンドロイチン、セサミンなど)
8	全員	服薬をした理由についてすべてをお選びください。その他があれば具体的に記載してください。	<表示/非表示設定> チェックボックス+フリー記述	1 風邪などで一時的に服用 2 骨折や切り傷などのけがで服用 3 定期的に通院している慢性的な病気で服用 4 滋養強壮や体調維持のため服用 5 その他 [FA]
9	#7で1以外と回答した回答者	市販薬やサプリメント、健康食品をどのように入手(購入)しましたか。あてはまるものすべてをお選びください。	チェックボックス+フリー記述	1 薬局 2 コンビニエンスストア、スーパー 3 インターネット通販 4 配置薬(置き薬) 5 その他 [FA]
10	#7で1以外と回答した回答者	市販薬やサプリメント、健康食品の入手方法について選んだ理由を具体的に記載してください。	<表示/非表示設定> チェックボックス+フリー記述	1 薬局 [FA] 2 コンビニエンスストア、スーパー [FA] 3 インターネット通販 [FA] 4 配置薬(置き薬) [FA] 5 その他 [FA] [FA]
11	全員	市販薬の箱の中の説明文書は読みますか？あてはまるものすべてをお選びください	チェックボックス	1 読まない 2 効能・効果(どのような症状に効くか)を読む 3 服用方法(1回1錠、1日3回などの用法)を読む 4 保管方法(冷暗所に保管、直射日光を避けるなどの保管方法)を読む 5 注意事項(副作用などの服用の注意)を読む 6 その他 [FA]
12	全員	病院やクリニックでもらう薬や処方箋を持っていき薬局で出してもらう薬の場合、薬と一緒にもらう説明書をよみますか？あてはまるものをお選びください	チェックボックス	1 読まない 2 効能・効果(どのような症状に効くか)を読む 3 服用方法(1回1錠、1日3回などの用法)を読む 4 保管方法(冷暗所に保管、直射日光を避けるなどの保管方法)を読む 5 注意事項(副作用などの服用の注意)を読む 6 その他 [FA]
13	全員	薬を服用するとき、不安を感じますか。あてはまるものすべてをお選びください。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス+フリー記述	1 不安は感じない 2 本当に効くか不安 3 副作用が不安 4 日常生活に影響がでないかどうか不安 5 医師から処方された薬と市販薬の両方を服用しているが大丈夫かどうか不安 6 薬の他に健康食品やサプリメントをいつも飲んで(食べて)いるが大丈夫かどうか不安 7 その他 [FA]
14	全員	薬には副作用や飲み合わせ(相互作用)があることを知っていますか。副作用、飲み合わせ(相互作用)についてそれぞれ1つずつあてはまるものをお選びください。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス+フリー記述	1 副作用が起きる可能性があることを知っている 2 副作用という言葉は聞いたことがあるがよくわからない 3 副作用という言葉は聞いたこともないし、知らない 4 飲み合わせ(相互作用)がどのようなものかよく知っている 5 飲み合わせ(相互作用)があることは聞いたことがあるがよくわからない 6 飲み合わせ(相互作用)があることを聞いたこともないし、知らない 7 その他 [FA]

15	全員	薬を服用していて、体調の変化や症状を感じたことがありますか。あてはまる場合はどのような症状でしたか。あてはまる症状すべてをお選びください。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス ス+フリー記述	<ul style="list-style-type: none"> 1 感じたことはない 2 眠気 3 ふらつく、めまいがするなど 4 かゆみ 5 皮膚に発疹(ブツブツ)がでる 6 口が渇く 7 お腹がはる 8 食欲がなくなる 9 むくみ(足、手、顔、など) 10 ドキドキする 11 息苦しくなる 12 その他 [FA]
16	#15で1以外を選択した回答者	体調の変化の原因は何だと考えましたか。あてはまる原因すべてをお選びください。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス ス+フリー記述	<ul style="list-style-type: none"> 1 病気の悪化 2 薬の副作用 3 ストレス 4 生活習慣 5 気持ちの持ちよう(気のせい) 6 その他 [FA]
16	#16で2を選択した回答者	薬の副作用だと考えたのはなぜですか。あてはまるものすべてをお選びください。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス ス+フリー記述	<ul style="list-style-type: none"> 1 薬を受け取った時に説明を受けた症状だったから 2 服薬開始と体調の変化が現れたのが同じ時期だったから 3 WEBや書籍などで調べたから 4 過去に同じようなことを経験したから 5 その他 [FA]
18	#16で2を選択した回答者	薬の副作用だと考えた薬はその後服薬を続けましたか。あてはまる回答をお選びください。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス ス+フリー記述	<ul style="list-style-type: none"> 1 誰にも相談せずに服薬を続けた 2 医師に相談して服薬を続けた 3 薬剤師に相談して服薬を続けた 4 その他の医療職に相談して服薬を続けた 5 誰にも相談せずに自己判断で服薬を中止した 6 医師に相談して服薬を中止した 7 薬剤師に相談して服薬を中止した 8 その他の医療職に相談して服薬を中止した 9 その他 [FA]
19	#15で1を選択した回答者	もし、体調の変化を感じたら誰かに相談しますか。あてはまるものすべてをお選びください。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス ス+フリー記述	<ul style="list-style-type: none"> 1 誰にも相談しない 2 医師 3 薬剤師 4 その他の医療職 5 家族、友人、介護支援者 6 その他 [FA]
20	#19で1を選択した回答者	誰にも相談しないと考える理由にあてはまるものすべてをお選びください。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス ス+フリー記述	<ul style="list-style-type: none"> 1 相談先や相談方法がわからない 2 必要性を感じない 3 自分の健康に自信がある 4 多忙で時間がない 5 体調の変化について、どのように説明したら良いかわからない 6 薬は安全なものだと信じている 7 その他 [FA]
21	#15で1以外を選択した回答者	体調の変化について誰かに相談しましたか。あてはまる相談相手すべてをお選びください。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス ス+フリー記述	<ul style="list-style-type: none"> 1 相談しなかった 2 医師 3 薬剤師 4 その他の医療職 5 家族、友人、介護支援者 6 その他 [FA]
22	#21で1以外を選択した回答者	相談したときに何か困ったことがありましたか。あてはまるものすべてをお選びください。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス ス+フリー記述	<ul style="list-style-type: none"> 1 特に困ったことはなかった 2 症状をうまく説明できなかった 3 十分に聞いてくれなかった 4 相談者に嫌がられた 5 その他 [FA]
23	#21で1を選択した回答者	相談しなかった理由にあてはまるものすべてをお選びください。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス ス+フリー記述	<ul style="list-style-type: none"> 1 相談する必要性を感じないから 2 症状をうまく説明できないから 3 誰へに相談すれば良いかわからないから 4 相談してもいいことかどうかわからないから 5 相談して、もし良くないことを言われたら嫌だから 6 相談したことが医師に伝わって悪く思われるかもしれないと思ったから 7 相談する機会がなかったから(時期を逸してしまったから) 8 その他 [FA]
24	全員	薬剤師に薬のことで相談するとしたら、どのような状況だったら相談しやすいと思いますか。あてはまるものすべてをお選びください。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス ス+フリー記述	<ul style="list-style-type: none"> 1 薬剤師の方から患者に声をかける 2 相談のきっかけとなるアンケート用紙などが薬局に常備されている 3 e-mailや電話など対面以外で相談ができる 4 プライバシーを保って相談できるスペースがある 5 患者が相談したい内容を自分で調べられるようなインターネットサイトや書籍がある 6 その他 [FA]
25	全員	服薬後の体調の変化や副作用を調べるためには、どのような仕組みがあればいいと思いますか。あてはまるものすべてをお選びください。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス ス+フリー記述	<p>(副作用を調べる仕組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 処方薬品名を入力すると副作用が検索できる 2 処方薬や市販薬名を入力すると副作用が検索できる 3 処方薬、市販薬名や主な健康食品名を入力すると副作用が検索できる 4 症状と服薬している処方薬を入力すると体調の変化や副作用の原因かどうか確認できる 5 症状と服薬している処方薬や市販薬を入力すると体調の変化や副作用の原因かどうか確認できる 6 症状と服薬している処方薬、市販薬や主な健康食品を入力すると体調の変化や副作用の原因かどうか確認できる 7 自分の服用薬を登録しておき、体調の変化や副作用を入力すると原因と考えられる薬剤がわかる 8 お薬手帳に記載の薬品名を読み取って副作用が検索できる <p>(飲み合わせを調べる仕組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> 9 複数の処方薬品名を入力すると飲み合わせが確認できる 10 複数の処方薬や市販薬名を入力すると飲み合わせを確認できる 11 複数の処方薬、市販薬名や主な健康食品名を入力すると飲み合わせを確認できる 12 お薬手帳に記載の薬品名を読み取って飲み合わせが検索できる <p>13 その他 [FA]</p>

副作用確認システムに関する調査 ー患者編 (WEB調査)ー

26	全員	<p>自覚した症状が薬の副作用や飲み合わせによるものかスマートフォンやタブレット端末を使って簡単に確認できるとしたら、どのような画面がいいと思いますか。いいと思うもの上位3つをお選びください。 その他があれば具体的に記載してください。</p>	<p>チェックボックス(制限あり) +フリー記述</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 どの画面もシンプルで見やすい 2 入力画面に「入力→確認→完了」など、操作状況に対するガイドが表示される 3 項目入力後に確認画面が表示されて入力内容を確認でき、全画面に戻って修正できる 4 入力後の確認などなく、できるだけ早く入力が完了する 5 一つの画面に表されている項目が絞られていてわかりやすい 6 決定や確認、送信といった重要なボタンは配置や色が目立つようになっていて間違えにくい 7 決定や確認、送信といったボタンが大きくクリックしやすい 8 操作を間違えたときは直前の画面に戻って再度操作ができる 9 操作を間違えた時にエラー音が出て注意を喚起される 10 操作を間違えた時にエラーの説明、その原因、対応方法がわかりやすく表記される 11 操作がわからないときにアクセスするヘルプやガイド機能を備えている 12 処理に時間がかかるときは処理状況が表示される 13 その他
27	全員	<p>お薬手帳が電子化されるとしたら、どのような機能があったら使いやすと思いますか。 あれば良いと思う機能にあてはまるものを最大3つまでお選びください。 その他があれば具体的に記載してください。</p>	<p>チェックボックス(制限あり) +フリー記述</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 複数の薬局で受け取った薬の一覧がすぐわかる 2 受け取った薬の中で飲み合わせ(相互作用)があった場合、注意が喚起される 3 過去に服用した薬の履歴が確認できる 4 受け取った薬と飲んでいる市販薬の中で飲み合わせ(相互作用)があった場合、注意が喚起される 5 市販薬の服用した履歴が確認できる 6 体調の変化から薬によるものかどうか確認できる 7 薬局にe-mailなどで相談ができる 8 アレルギーや持病を登録しておく、飲んではいけない薬がチェックできる 9 その他 [FA]

設問 5: 相談を受けた場合、何を確認しますか。当てはまる確認項目をすべてに○印をつけてください。
その他があれば具体的に記載してください。

1. 服用薬の内容、種類
2. 服用量や服薬期間
3. 自覚症状の内容
4. 体調変化の発現時期
5. 体調変化の発現期間
6. 医療者への確認をしたかどうか
7. 医薬品以外の健康食品・サプリメントの摂取
8. 何を確認したら良いかわからない
9. その他()

設問 6: あなたは薬には副作用や飲み合わせ(相互作用)があることを知っていますか。副作用、飲み合わせ(相互作用)についてそれぞれ1つずつ当てはまるものに○印をつけてください。
その他があれば具体的に記載してください。

(副作用について)

1. 副作用が起きる可能性があることを知っている
2. 副作用という言葉は聞いたことがあるがよくわからない
3. 副作用という言葉聞いたこともないし、知らない

(飲み合わせ(相互作用)について)

4. 飲み合わせ(相互作用)がどのようなものか良く知っている
5. 飲み合わせ(相互作用)があることは聞いたことがあるがよくわからない
6. 飲み合わせ(相互作用)があることを聞いたこともないし、知らない
7. その他()

設問 7: 利用者や利用者家族から利用者の体調の変化について問い合わせを受けた時に最も困ることは何ですか。困ることについて自由に記載してください。

設問 8: 利用者が体調の変化を感じても利用者や利用者家族が薬剤師に相談をしない理由は何だと思えますか。当てはまると思う理由すべてに○印をつけてください。
その他があれば具体的に記載してください。

1. 相談する必要性を感じないから
2. 利用者や利用者家族が症状をうまく説明できないから
3. 薬局が相談にのることを知らないから
4. 相談してよいことかわからないから
5. 相談して、もし良くない回答がもどってきたら嫌だと思っているから
6. 相談相手としてまずは医師を思い浮かべるから
7. 相談したことが医師に伝わって悪く思われるかもしれないと思っているから
8. 相談する機会がなかったから(時期を逸してしまったから)
9. その他()

設問 9: 利用者や利用者家族にとって、薬剤師に相談しやすい状況や環境とはどのようなものだと思いますか。当てはまるものすべてに○印をつけてください。その他があれば具体的に記載してください。

1. 薬剤師の方から患者に声をかける
2. 相談のきっかけとなるアンケート用紙などが薬局に常備されている
3. プライバシーを保って相談できるスペースがある
4. 電子メールや電話など対面以外で相談ができる
5. 患者が相談したい内容を自分で調べられるようなインターネットサイトや書籍がある
6. その他()

設問 10: 利用者や利用者家族からの相談対応の質を上げるために整備すべきものはどのようなものがあると思いますか。当てはまるものすべてに○印をつけてください。その他があれば具体的に記載してください。

1. 相談を受けた時の薬剤師、患者、福祉職間での対応方法のルール化
2. 事例集などの説明資料の整備
3. 副作用・相互作用などを簡便に調べるためのツールの整備
4. 副作用や飲み合わせ(相互作用)に関する知識習得の機会
5. その他()

設問 11: 服薬後の体調の変化や副作用を調べるには、どのような仕組みがあればいいと思いますか。当てはまるものすべてに○印をつけてください。その他あれば具体的に記載してください

(副作用を調べる仕組み)

1. 処方薬品名を入力すると副作用が検索できる
2. 処方薬や市販薬名を入力すると副作用が検索できる
3. 処方薬、市販薬名や主な健康食品名を入力すると副作用が検索できる
4. 症状と服薬している処方薬を入力すると体調の変化や副作用の原因かどうか確認できる
5. 症状と服薬している処方薬や市販薬を入力すると体調の変化や副作用の原因かどうか確認できる
6. 症状と服薬している処方薬、市販薬や主な健康食品を入力すると体調の変化や副作用の原因かどうか確認できる
7. 利用者の服用薬を登録しておき、体調の変化や副作用を入力すると原因と考えられる薬剤がわかる
8. お薬手帳に記載の薬品名を読み取って副作用が検索できる

(飲み合わせを調べる仕組み)

9. 複数の処方医薬品名を入力すると飲み合わせが確認できる
10. 複数の処方薬や市販薬名を入力すると飲み合わせを確認できる
11. 複数の処方薬、市販薬名や主な健康食品名を入力すると飲み合わせを確認できる
12. お薬手帳に記載の薬品名を読み取って飲み合わせが検索できる
13. その他()

設問 12: 自覚した症状が薬の副作用や飲み合わせによるものかスマートフォンやタブレット端末を使って簡単に確認できるとしたら、どのような画面がいいと思いますか。いいと思うもの上位3つを選んで○印をつけてください。その他があれば具体的に記載してください。

1. どの画面もシンプルで見やすい
2. 入力画面に「入力→確認→完了」など、操作状況に対するガイドが表示される
3. 項目入力後に確認画面が表示されて入力内容を確認でき、全画面に戻って修正できる
4. 入力後の確認などなく、できるだけ早く入力が完了する
5. 一つの画面に表されている項目が絞こまれていてわかりやすい
6. 決定や確認、送信といった重要なボタンの配置や色が目立つようになっていて間違えにくい
7. 決定や確認、送信といったボタンが大きくクリックしやすい
8. 操作を間違えたときは直前の画面に戻って再度操作ができる
9. 操作を間違えた時にエラー音が出て注意を喚起される
10. 操作を間違えた時にエラーの説明、その原因、対応方法がわかりやすく表記される
11. 操作がわからないときにアクセスするヘルプやガイド機能を備えている
12. 処理に時間がかかるときは処理状況が表示される
13. その他()

設問 13: お薬手帳が電子化されるとしたら、どのような機能があれば使いやすいと思いますか。あればいいと思う機能について、当てはまるものを最大3つまで○印をつけてください。その他があれば具体的に記載してください。

1. 複数の薬局で受け取った薬の一覧がすぐわかる
2. 受け取った薬の中で飲み合わせ(相互作用)があった場合、注意が喚起される
3. 過去に服用した薬の履歴が確認できる
4. 受け取った薬と飲んでいる市販薬の中で飲み合わせ(相互作用)があった場合、注意が喚起される
5. 市販薬の服用した履歴が確認できる
6. 体調の変化から薬によるものかどうか確認できる
7. 薬局に e-mail などで相談ができる
8. アレルギーや持病を登録しておく、飲んではいけない薬がチェックできる
9. その他()

設問 14: あなたはどの程度の頻度でインターネットを利用しますか。当てはまる番号1つだけに○印をつけてください。

1. よく使う
2. ときどき使う
3. 使ったことがある
4. ほとんど使わない
5. 使ったことがない

設問 15: あなたが普段、インターネットを使って必要な情報を収集するときは何を使用しますか。当てはまるものすべてに○印をつけてください。その他があれば具体的に記載してください。

1. パソコンを使用して調べる
2. スマートフォン(iPhone やギャラクシーなど)を使用して調べる
3. タブレット型端末を使用して調べる
4. 従来型携帯電話(ガラケー)を使用して調べる
5. 事務所の同僚やスタッフ、知人などに依頼して調べる
6. インターネットはほとんど利用しない
7. その他()

別紙3

副作用確認システムに関する調査 一 薬局薬剤師編 (Aグループ WEB調査)				
No	該当回答者	設問項目	回答形式	回答選択肢
1	全員	あなたの年代を選んでください	ラジオボタン	1 20代 2 30代 3 40代 4 50代 5 60代 6 70歳以上
2	全員	薬局でのあなたの立場をお知らせください	ラジオボタン	1 経営者 2 薬局長 3 管理薬剤師 4 薬剤師
3	全員	勤務先薬局で応需している月平均処方箋枚数をお知らせください。おおよその枚数で構いません	ラジオボタン	1 月平均500枚以下 2 月平均501枚～1000枚 3 月平均1001枚～1500枚 4 月平均1501枚以上
4	全員	勤務先薬局に所属する薬剤師の人数をお知らせください ※パートタイム勤務者の場合、勤務時×人数で記載ください。例：半日勤務×1人の場合、0.5として記載	数値記入	
5	全員	薬局の所在地	プルダウン	都道府県
6	全員	勤務先薬局の特性	ラジオボタン	1 処方箋を応需する医療機関が3箇所程度で8～9割りを占める 2 面分業
7	全員	過去3ヶ月に、あなたが受けた、患者からの一般薬、処方薬に限らず薬に関する相談の頻度を教えてください。当てはまる頻度を選んでください。	ラジオボタン	1 毎日複数回受けた 2 平均1日1回程度 3 平均週に2～3回程度 4 平均週に1回程度 5 1～2回/月程度 6 全くない
8	#7で6以外を選択した回答者	患者からうけた相談はどのような内容ですか。当てはまる相談内容をすべて選んでください。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス+フリー記述	1 用法用量 2 服用方法や使用方法 3 飲み忘れの対応方法 4 効能効果 5 効果が出るまでの時間 6 処方箋薬服用後の体調変化 7 OTC薬服用後の体調変化 8 健康食品、サプリメント摂取後の体調変化 9 処方薬と処方箋薬との飲み合わせ 10 処方箋薬とOTC薬との飲み合わせ 11 処方箋薬と健康食品との飲み合わせ 12 OTC薬と健康食品との飲み合わせ 13 服用中止の判断 14 その他 [FA]
9	全員	患者から体調変化や相互作用に関する相談を受けたとき、あなたが確認したことを教えてください。当てはまる確認項目を全て選んでください。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス+フリー記述	1 服用薬の内容 2 服用量や服用期間 3 体調変化の内容 4 体調変化の発現期間 5 体調変化の発現時期 6 アレルギーの有無 7 健康食品・サプリメントの摂取状況 8 現疾患 9 その他 [FA]
10	#7で6以外を選択した回答者	相談の内容の中で、副作用や相互作用に関するものはどの程度(割合)ありましたか。おおよそで構いません	ラジオボタン	1 かなり多い(90%以上) 2 比較的多い(75%程度) 3 相談件数のうち半分くらい(50%程度) 4 たまにある(25%程度) 5 ほとんどない(10%以下)
11	#7で6以外を選択した回答者	相談を受けた時、患者が副作用、相互作用を疑っていた理由は何かと思いましたが、当てはまるものをすべて選んでください。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス+フリー記述	1 薬を受取った時に説明を受けた症状だったから 2 服薬開始と体調の変化が現れたのが同じ時期だったから 3 WEBや書籍などで調べていたから 4 過去に同じような症状を経験したから 5 その他 [FA]
12	全員	患者からの相談対応の質を上げるために強化すべきものはどのようなものがあると思いますか	チェックボックス+フリー記述	1 最新の知識(副作用、相互作用など)の習得 2 医療者としてのマインドの醸成 3 わかりやすく説明するコミュニケーションスキル 4 患者が理解したかどうかを把握する技術 5 医薬品等に関する情報を検索する技術 6 その他 [FA]
13	全員	患者から薬について相談を受けた時、副作用や相互作用はどのようにして調べましたか。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス+フリー記述	1 PMDAサイト等WEBで副作用・相互作用を確認した 2 添付文書、書籍で確認した 3 各種勉強会で学んだ知識を活用した 4 同僚、先輩、知人に確認した 5 副作用や相互作用についてある程度知っているのので特に調べない 6 その他 [FA]
14	全員	健康食品・サプリメントの副作用や相互作用をどのようにして調べましたか。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス+フリー記述	1 書籍、WEB等で確認した 2 各種勉強会で学んだ知識を活用した 3 同僚、先輩、知人に確認した 4 調べる方法がわからない 5 調べない 6 その他 [FA]

副作用確認システムに関する調査 ー薬局薬剤師編 (Aグループ WEB調査)ー

No	該当回答者	設問項目	回答形式	回答選択肢
15	全員	患者が体調変化を感じても薬剤師に相談をしない理由は何だと思えますか。当てはまる理由をすべて選んでください。 その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス+フリー記述	1 相談する必要性を感じないから 2 患者が症状をうまく説明できないから 3 薬局が相談にのることを知らないから 4 相談してよいことかどうかわからないから 5 相談して、もし、良くない回答がもどってきたら嫌だと思っているから 6 相談相手としてまずは医師を思い浮かべるから 7 相談したことが医師に伝わって悪く思われるかもしれないと思っているから 8 相談する機会がなかったから(時期を逸してしまったから) 9 その他 [FA]
16	全員	患者にとって相談しやすい状況や環境とはどのようなものだと思いますか	チェックボックス+フリー記述	1 薬剤師の方から患者に声をかける 2 相談のきっかけとなるアンケート用紙などが薬局に常備されている 3 プライバシーを保って相談できるスペースがある 4 e-mailや電話など対面以外で相談ができる 5 患者が相談したい内容を自分で調べられるようなインターネットサイトや書籍がある 6 その他 [FA]
17	全員	患者からの相談対応の質を上げるために整備すべきものはどのようなものがあると思いますか	チェックボックス+フリー記述	1 薬局での相談対応方法のルール化、チェックリストの整備 2 事例集などの説明資料の整備 3 副作用・相互作用などを簡便に調べるためのツールの整備 4 薬剤師が相談対応で困った時の相談窓口の設置 5 その他 [FA]
18	全員	在宅患者(患者家族)や担当福祉職からの相談対応の質を上げるために整備すべきものはどのようなものがあると思いますか	チェックボックス+フリー記述	1 相談を受けた時の薬剤師、患者、福祉職間での対応方法のルール化 2 事例集などの説明資料の整備 3 副作用・相互作用などを簡便に調べるためのツールの整備 4 福祉職への注意事項や副作用に関する説明 5 在宅医療支援をやっていないのでわからない 6 その他 [FA]
19	全員	服薬後の体調の変化や副作用を調べるためには、どのような仕組みがあればいいと思いますか。あてはまるものすべてをお選びください。 その他あれば具体的に記載してください	チェックボックス+フリー記述	(副作用を調べる仕組み) 1 処方薬品名を入力すると副作用が検索できる 2 処方薬や市販薬名を入力すると副作用が検索できる 3 処方薬、市販薬名や主な健康食品名を入力すると副作用が検索できる 4 症状と服薬している処方薬を入力すると体調の変化や副作用の原因かどうか確認できる 5 症状と服薬している処方薬や市販薬を入力すると体調の変化や副作用の原因かどうか確認できる 6 症状と服薬している処方薬、市販薬や主な健康食品を入力すると体調の変化や副作用の原因かどうか確認できる 7 自分の服用薬を登録しておき、体調の変化や副作用を入力すると原因と考えられる薬剤がわかる 8 お薬手帳に記載の薬品名を読み取って副作用が検索できる (飲み合わせを調べる仕組み) 9 複数の処方医薬品名を入力すると飲み合わせが確認できる 10 複数の処方薬や市販薬名を入力すると飲み合わせを確認できる 11 複数の処方薬、市販薬名や主な健康食品名を入力すると飲み合わせを確認できる 12 お薬手帳に記載の薬品名を読み取って飲み合わせが検索できる 13 その他 [FA]
20	全員	患者が自覚症状を薬の副作用や飲み合わせによるものか簡単にWEBで確認できるシステムがあるとします。 上記のシステムは有用と思えますか?また、そう思った理由も記載してください。	チェックボックス+フリー記述	1 有用と思われる 2 有用と思えない 3 どちらともいえない 4 理由(
21	全員	患者が自覚症状を薬の副作用や飲み合わせによるものか簡単にWEBで確認できるシステムがあるとします。 上記システムで副作用が疑われる結果が出た時、患者が薬局に相談に来るようにするにはどうしたらいいと思えますか。	チェックボックス+フリー記述	1 e-mailで相談を受け付ける 2 電話で相談を受け付ける 3 FAXで相談を受け付ける 4 検索結果を印刷して持参して相談 5 スマートフォンやタブレット端末で検索結果を提示して相談 6 営業時間外は専用コールセンターで受け付けて相談 7 その他 [FA]
22	全員	お薬手帳が電子化された場合に期待することや、課題だと思うことを具体的に記載してください	フリー記述	
※ご記入いただきましたお名前、ご連絡先は本アンケートの目的以外に使用することはございません。 アンケート結果は、すべて統計的に処理いたしますので、お名前や個人を特定できる情報が外部に出ることは一切ございません。				
23	全員	今後、本研究について引き続きご協力をお願いしたい場合がございますので、差し支えなければ、お名前と連絡先を教えてください(任意)		1 氏名 [FA] 2 メールアドレス [FA] 3 記入したくない

副作用確認システムに関する調査 ー薬局薬剤師編 (Bグループ 調査票調査)ー

No	該当回答者	設問項目	回答形式	回答選択肢
1	全員	あなたの年代を選んでください	ラジオボタン	1 20代 2 30代 3 40代 4 50代 5 60代 6 70歳以上
2	全員	薬局でのあなたの立場をお知らせください	ラジオボタン	1 経営者 2 薬局長 3 管理薬剤師 4 薬剤師
3	全員	勤務先薬局で応需している月平均処方箋枚数をお知らせください。おおよその枚数で構いません	ラジオボタン	1 月平均500枚以下 2 月平均501枚～1000枚 3 月平均1001枚～1500枚 4 月平均1501枚以上
4	全員	勤務先薬局に所属する薬剤師の人数をお知らせください ※パートタイム勤務者の場合、勤務時×人数で記載ください。例:半日勤務×1人の場合、0.5として記載	数値記入	
5	全員	薬局の所在地	プルダウン	都道府県
6	全員	勤務先薬局の特性	ラジオボタン	1 処方箋を応需する医療機関が3箇所程度で8～9割りを占める 2 面分業
7	全員	過去3ヶ月に、あなたが受けた、患者からの一般薬、処方薬に限らず薬に関する相談の頻度を教えてください。当てはまる頻度を選んでください。	ラジオボタン	1 毎日複数回受けた 2 平均1日1回程度 3 平均週に2～3回程度 4 平均週に1回程度 5 1～2回/月程度 6 全くない
8	#7で6以外を選択した回答者	患者からうけた相談はどのような内容ですか。当てはまる相談内容をすべて選んでください。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス+フリー記述	1 用法用量 2 服用方法や使用方法 3 飲み忘れの対応方法 4 効能効果 5 効果が出るまでの時間 6 処方箋薬服用後の体調変化 7 OTC薬服用後の体調変化 8 健康食品、サプリメント摂取後の体調変化 9 処方薬と処方箋薬との飲み合わせ 10 処方箋薬とOTC薬との飲み合わせ 11 処方箋薬と健康食品との飲み合わせ 12 OTC薬と健康食品との飲み合わせ 13 服用中止の判断 14 その他 [FA]
9	全員	患者から体調変化や相互作用に関する相談を受けたとき、あなたが確認したことを教えてください。当てはまる確認項目を全て選んでください。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス+フリー記述	1 服用薬の内容 2 服用量や服用期間 3 体調変化の内容 4 体調変化の発現期間 5 体調変化の発現時期 6 アレルギーの有無 7 健康食品・サプリメントの摂取状況 8 現疾患 9 その他 [FA]
10	#7で6以外を選択した回答者	相談の内容の中で、副作用や相互作用に関するものはどの程度(割合)ありましたか。おおよそで構いません	ラジオボタン	1 かなり多い(90%以上) 2 比較的多い(75%程度) 3 相談件数のうち半分くらい(50%程度) 4 たまにある(25%程度) 5 ほとんどない(10%以下)
11	#7で6以外を選択した回答者	相談を受けた時、患者が副作用、相互作用を疑っていた理由は何だと思いましたが、当てはまるものをすべて選んでください。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス+フリー記述	1 薬を受取った時に説明を受けた症状だったから 2 服薬開始と体調の変化が現れたのが同じ時期だったから 3 WEBや書籍などで調べていたから 4 過去に同じような症状を経験したから 5 その他 [FA]
12	全員	患者からの相談対応の質を上げるために強化すべきものはどのようなものがあると思いますか	チェックボックス+フリー記述	1 最新の知識(副作用、相互作用など)の習得 2 医療者としてのマインドの醸成 3 わかりやすく説明するコミュニケーションスキル 4 患者が理解したかどうか把握する技術 5 医薬品等に関する情報を検索する技術 6 その他 [FA]
13	全員	患者から薬について相談を受けた時、副作用や相互作用はどのようにして調べましたか。その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス+フリー記述	1 PMDAサイト等WEBで副作用・相互作用を確認した 2 添付文書、書籍で確認した 3 各種勉強会で学んだ知識を活用した 4 同僚、先輩、知人に確認した 5 副作用や相互作用についてある程度知っているので特に調べない 6 その他 [FA]
14	全員	健康食品・サプリメントの副作用や相互作用をどのようにして調べましたか? その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス+フリー記述	1 書籍、WEB等で確認した 2 各種勉強会で学んだ知識を活用した 3 同僚、先輩、知人に確認した 4 調べる方法がわからない 5 調べない 6 その他 [FA]

副作用確認システムに関する調査 ー薬局薬剤師編 (Bグループ 調査票調査)ー

No	該当回答者	設問項目	回答形式	回答選択肢
15	全員	患者が体調変化を感じても薬剤師に相談をしない理由は何だと思えますか。当てはまる理由をすべて選んでください。 その他があれば具体的に記載してください。	チェックボックス+フリー記述	1 相談する必要性を感じないから 2 患者が症状をうまく説明できないから 3 薬局が相談にのることを知らないから 4 相談してよいことかどうかわからないから 5 相談して、もし、良くない回答がもどってきたら嫌だと思っているから 6 相談相手としてまずは医師を思い浮かべるから 7 相談したことが医師に伝わって悪く思われるかもしれないと思っているから 8 相談する機会がなかったから(時期を逸してしまったから) 9 その他 [FA]
16	全員	患者にとって相談しやすい状況や環境とはどのようなものだと思いますか	チェックボックス+フリー記述	1 薬剤師の方から患者に声をかける 2 相談のきっかけとなるアンケート用紙などが薬局に常備されている 3 プライバシーを保って相談できるスペースがある 4 e-mailや電話など対面以外で相談ができる 5 患者が相談したい内容を自分で調べられるようなインターネットサイトや書籍がある 6 その他 [FA]
17	全員	患者からの相談対応の質を上げるために整備すべきものにはどのようなものがあると思いますか	チェックボックス+フリー記述	1 薬局での相談対応方法のルール化、チェックリストの整備 2 事例集などの説明資料の整備 3 副作用・相互作用などを簡便に調べるためのツールの整備 4 薬剤師が相談対応で困った時の相談窓口の設置 5 その他 [FA]
18	全員	在宅患者(患者家族)や担当福祉職からの相談対応の質を上げるために整備すべきものにはどのようなものがあると思いますか	チェックボックス+フリー記述	1 相談を受けた時の薬剤師、患者、福祉職間での対応方法のルール化 2 事例集などの説明資料の整備 3 副作用・相互作用などを簡便に調べるためのツールの整備 4 福祉職への注意事項や副作用に関する説明 5 在宅医療支援をやっていないのでわからない 6 その他 [FA]
19	全員	患者が服薬後の体調の変化や副作用を調べるのには、どのような仕組みがあればいいと思えますか。あてはまるものすべてを選んでください。	チェックボックス+フリー記述	1 処方薬品名から副作用が検索出来る 2 複数の処方医薬品名から飲み合わせが確認できる 3 症状と服薬している処方薬から体調の変化や副作用の原因かどうか確認できる 4 処方薬や市販薬名から副作用が検索できる 5 複数の処方薬や市販薬名から飲み合わせを確認できる 6 症状と服薬している処方薬や市販薬から体調の変化や副作用の原因かどうか確認できる 7 処方薬、市販薬名や主な健康食品名から副作用が検索できる 8 複数の処方薬、市販薬名や主な健康食品名から飲み合わせを確認できる 9 症状と服薬している処方薬、市販薬や主な健康食品から体調の変化や副作用の原因かどうか確認できる 10 その他 [FA]
20	患者が自覚症状を薬の副作用や飲み合わせによるものか簡単にWEBで確認できるシステムがあるとします。			
	全員	上記のシステムは有用と思えますか？また、そう思った理由も記載してください。	チェックボックス+フリー記述	1 有用と思われる 2 有用と思えない 3 どちらともいえない 4 理由(
21	患者が自覚症状を薬の副作用や飲み合わせによるものか簡単にWEBで確認できるシステムがあるとします。			
	全員	上記システムで副作用が疑われる結果が出た時、患者が薬局に相談に来るようにするにはどうしたらいいと思えますか。	チェックボックス+フリー記述	1 e-mailで相談を受け付ける 2 電話で相談を受け付ける 3 FAXで相談を受け付ける 4 検索結果を印刷して持参して相談 5 スマートフォンやタブレット端末で検索結果を提示して相談 6 営業時間外は専用コールセンターで受け付けて相談 7 その他 [FA]
22	全員	お薬手帳が電子化された場合に期待することや、課題だと思われることを具体的に記載してください	フリー記述	

※ご記入いただきましたお名前、ご連絡先は本アンケートの目的以外に使用することはありません。

アンケート結果は、すべて統計的に処理いたしますので、お名前や個人を特定できる情報が外部に出ることは一切ございません。

23	全員	今後、本研究について引き続きご協力をお願いしたい場合がございますので、差し支えなければ、お名前と連絡先を教えてください(任意)		1 氏名 [FA]
				2 メールアドレス [FA]
				3 記入したくない

平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金

(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)

研究課題「患者の自覚症状による副作用確認システムに関する研究」 タブレット端末により提供された副作用確認システムのパイロット調査

研究代表者 望月 眞弓 (慶應義塾大学薬学部教授)

研究協力者 丸山 順也 (慶應義塾大学薬学部助教)

研究要旨

本研究では、患者自身が自覚症状を医薬品に関連付けて、医師や薬剤師に相談できるようなシステム開発を行っている。今回、次年度に開発するタブレット用端末のアプリの要求仕様を検討するために、調査対象者に、サンプル事例を用いて実際にタブレット端末で検索していただき、検索後にどのように行動するかを確認することとし、関連性が疑われる場合には、薬局へ相談に行くか否か、相談に行かない場合、その理由について調査した。その結果、タブレット端末を用いて検索を体験する前と比較して、検索を体験した後では専門家へ相談するという意向を示す人が増えることを確認した。また、専門家への相談を動機付けるには、「医師や薬剤師へ相談して下さい」など、ストレートな文言で相談を強く勧めることが望まれる。

A. 研究目的

医薬品服用後に体調の変化を感じた場合を想定し、医薬品との関係性をタブレット端末用アプリで検索し、関連性が疑われる場合には、薬局へ相談に行くか否か、相談に行かない場合、その理由について、タブレット端末を用いた、よりリアルな環境下で調査する。

B. 研究方法

調査は、平成 26 年 3 月に対面調査にて実施した。対象は、55 歳以上の男女とし、タブレット端末にてサンプル事例を検索していただき、医療者に相談に行くか否か、行かない場合、その理由について検索体験前と体験後の行動の変化を確認した。サンプル事例は、体調の変化が服薬している薬に起因する可能性が

あることを示唆する検索結果が表示される事例とした。調査項目は別紙 1 に示した。

本調査の実施は、株式会社マディアの協力のもとに行った。

■服薬後の体調変化の経験と感じた場合の相談状況に関する設問

< 3 問 >

- ・服薬後に体調の変化の有無: (Q1)
- ・体調の変化についての相談行動: (Q4、Q5)

■タブレット端末による事例検索を体験した後の相談行動に関する設問

< 4 問 >

- ・検索結果を見た後の相談行動: (Q6、Q9)
- ・検索結果を見た後の服薬行動: (Q7)
- ・検索結果の表示内容: (Q8)

■回答者属性設問

・年代(年齢)、性別

C. 研究結果

調査期間内に集積された回答は、34 件で、全件分析対象とした。各設問の回答未記入については、属性に関する設問は分母に加え、各本調査設問については、分母から除外した。各設問に対する回答の集計の中から、論点ごとに、主要な結果を以下に示す。

1. 回答者属性

1) 患者の属性

a. 年代(年齢)

55 歳～60 歳 38.2%、61 歳～65 歳 47.1%、66 歳～70 歳 5.9%、71 歳～75 歳 0.0%、76 歳～80 歳 2.9%、81 歳以上 5.9% であった。患者 1,000 人を対象とした先行調査は 65 歳以上の回答者が 31.8%であったが、本調査では 14.7%となり、中年層の回答が多い結果となった。

b. 性別

男性 76.5%、女性 23.5%であった。患者

1,000 人を対象とした先行調査は男性 50.0%、女性 50.0%であり、先行調査に比して本調査は男性比率の高い調査となった。

2. 服薬後の体調変化の経験がある場合の相談状況と相談先について

1) 体調の変化の有無と相談状況

服薬後に何らかの体調の変化を感じたことのある回答者は 20.6%、感じたことのない患者が 79.4%であった。先行調査では、46.5%が体調の変化を感じたことがあると回答していた。

体調の変化を感じたことのある回答者の、その後の行動は「相談しなかった」が 23.3%で「医師に相談した」、「薬剤師へ相談した」、「その他の医療職に相談した」、「家族、友人、介護支援者に相談した」がそれぞれ 60.0%、3.3%、6.7%、10.0%であった。相談しなかった理由としては、全員が「相談する必要性を感じないから」を選択した。

体調の変化を感じた後の相談行動について、先行調査回答との比較を図 1 に示した。

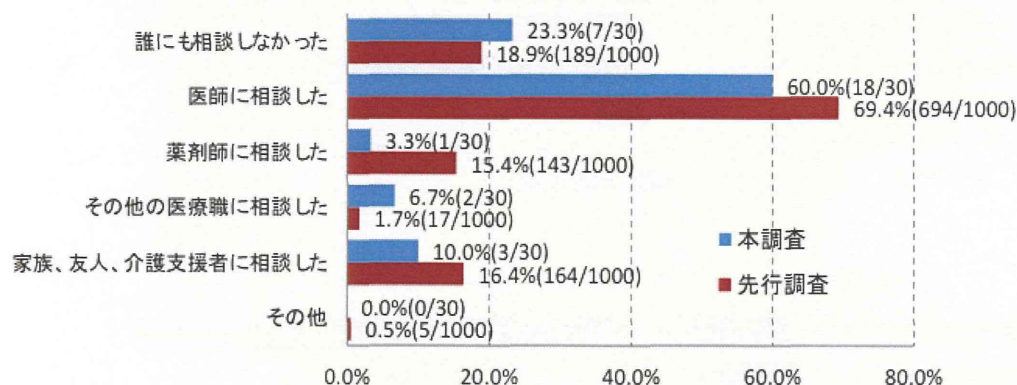


図 1 体調の変化を感じた後の相談行動

3. タブレット端末による事例検索を体験した後の相談行動について

1) 検索体験後の相談行動

回答者全員にタブレット端末を用いて実際に検索結果は体調の変化は服薬している薬に起因する可能性があることを示唆する内容の事例を検索していただき、その後どのような行動をとるかを問うた。

検索結果を見た後の行動として、医師や薬剤師など専門家に相談するが 50.0%、相談してみようかと思うが 47.1%であり、97%が相談の意向を示し、相談しないは 2.9%であった。その回答を図 2 に示した。

検索体験前は相談しない(しなかった)が

23.3%であったのに対し、体験後は 2.9%へと変化しており、検索体験が専門家への相談行動を促していることが示唆された。

検索結果を医師や薬剤師へ相談するとしたら、どのような方法で相談したいかについては、電話や電子メールでの非対面での相談が 46.7%、対面での相談が 53.3%であった。その回答を図 3 に示した。

2) 検索体験後の服薬行動

検索結果を見た後の服薬行動については、やめない(服薬継続)が 5.9%、医師や薬剤師などの専門家に相談してからやめるが 79.4%、誰にも相談しないでやめるが 14.7%であった。その回答を図 4 に示した。

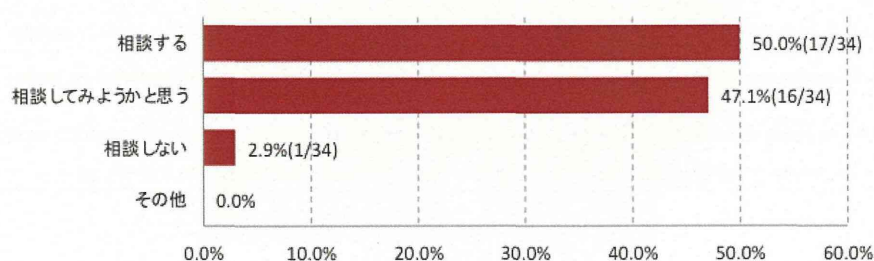


図 2. 検索体験後の相談行動

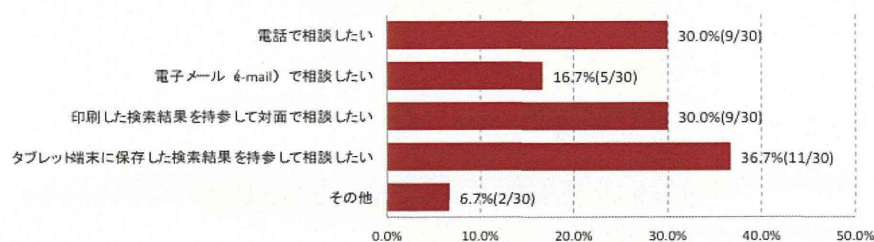


図 3. 相談方法

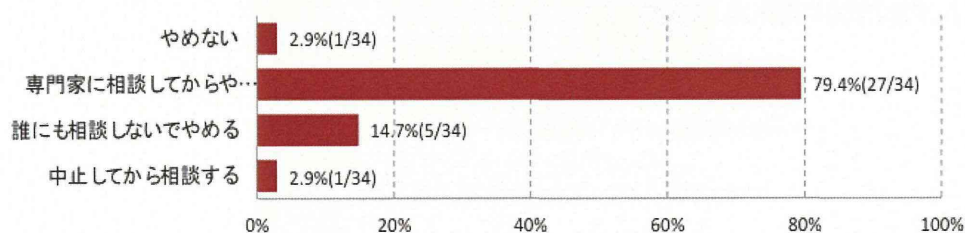


図 4. 検索体験後の服薬行動

3) 検索結果の表示内容

検索結果が表示されると同時に、どのような文言が表示されれば、医師や薬剤師など、専門家に相談するきっかけとなるかについては、「医師や薬剤師へ相談して下さい」、「医師、薬剤師などの専門家への相談をお勧めします」「早く医者にかかって下さい(相談して下さい)」など、ストレートに相談を指示する文言が良いとする回答が多かった。

D. 考察

本研究では、患者のヘルスリテラシーを高め、患者自身が自覚症状を医薬品に関連付けて、医師や薬剤師に相談できるような仕組みを検討している。先行調査において、患者は医薬品の副作用や相互作用について、服用前に調べる人が多いことが確認された。このため、服用後に医薬品の副作用や相互作用を検索することがそもそも想起しにくく、「服用後に体調の変化を感じた場合、医薬品との関連性をアプリで検索し、関連性が疑われる場合には、薬局へ相談に行くか否か」という設問への回答が難しかった可能性が示唆された。そこで本調査では、調査対象者にサンプル事例を用いて実際にタブレット端末で検索していただき、検索後にどのように行動するかを確認した。

服薬後に体調変化を感じた際の相談先は、「医師に相談した」が回答の 60.0%と最も多く、先行調査でも 69.4%であったことから、ほぼ同様の結果となった。一方、「薬剤師に相談した」という回答については、先行調査では 15.4%であったが、本調査では 3.3%であった。先行調査と同様に、服薬後の体調変化について、薬剤師に相談できることがあまり知られていないと考えられた。

タブレット端末を実際に用いてサンプル事例を検索していただき、医薬品との関連性が疑われる場合に、薬局へ相談に行くか否か、相談に行かない場合、その理由について調査した結果、事例検索を体験した後の行動として、回答者の 97%が相談の意向を示した。また、検索体験前は「相談しない」と回答した人が 23.3%であったのに対し、体験後は 2.9%と変化しており、実際にタブレット端末に触れ、検索結果を目にすることで、専門家への相談行動を促すことに繋がると考えられた。相談方法については、非対面での相談が 46.7%、対面での相談が 53.3%であり、電話やメールに接続する機能、結果画面を印刷又はタブレット端末に保存して薬局などへ持参できるような機能など、対面と非対面両方に対応できるシステムが望まれると考えられた。

検索結果を見た後の服薬行動については、医師、薬剤師など専門家に相談してからやめるが 79.4%であった。その一方で、「誰にも相談しないでやめる」が 14.7%であったことから、検索結果によって服薬コンプライアンスの低下につながる可能性が考えられた。したがって、検索結果の表示方法や内容、また、相談を勧める文言を使用する等の工夫が必要である。

E. 結論

本研究では、患者自身が自覚症状を医薬品に関連付けて、医師や薬剤師に相談できるような仕組みを検討する目的で、実際にタブレット端末を用いて医薬品との関連性についてタブレット端末用アプリで検索し、関連性が疑われる場合には、薬局へ相談に行くか否か、相談に行かない場合、その理由について調査した。その結果、タブレット端末を用いて検索を体験する前と比較して、検索を体験した後で

は専門家へ相談するという意向を示す人が増えることを確認した。また、専門家への相談を動機付けるには、「医師や薬剤師へ相談して下さい」など、ストレートな文言で相談を強く勧めることが望まれる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

参考文献

なし

別紙 1

タブレット端末を用いた 医療消費者調査

ご記入いただいた内容については、統計的に処理をするため個々の内容が外部に漏れることはありませんので、忌憚ないご記入をお願い致します。

この調査は、回答途中でタブレット端末のアプリケーションソフトを使用して頂き、その後に引き続き回答していただくものです。設問は調査票用紙の表裏両面に記載されていますので、もれなくご記入ください。

タブレット端末のアプリケーションの使用は回答用紙の中に記載されている使用方法を確認しながら使用してください。

回答は、各設問の当てはまる番号に○印をつけるか必要箇所にご記入ください。

設問 1: あなたの年代(年齢)に○印をつけて下さい。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 55歳～60歳 | 2. 61歳～65歳 | 3. 66歳～70歳 |
| 4. 71歳～75歳 | 5. 76歳～80歳 | 6. 81歳以上 |

設問 2: あなたの性別に○印をつけて下さい。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

設問 3: 今までに薬を服用していて、体調の変化や何かいつもと異なる症状を感じたことがありますか。当てはまるものに○印をつけてください。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 体調の変化を感じたことがある | 2. 体調の変化を感じたことはない |
|-------------------|-------------------|

設問 4: 体調の変化について誰かに相談しましたか。当てはまるものに○印をつけてください
(体調の変化を感じたことの無い方は、もし感じたとしたら、どうしたかを回答して下さい)

- | | | |
|-----------------------------|-------------|-----------------|
| 1. 誰にも相談しなかった ⇒設問 5 へお進み下さい | | |
| 2. 医師に相談した | 3. 薬剤師に相談した | 4. その他の医療職へ相談した |
| 5. 家族、友人、介護支援者に相談した | 6. その他() | |

設問 5: 体調の変化について誰にも相談しなかった方(相談しないと考える方)にお伺いします。
相談しなかった理由に当てはまるものすべてに○印をつけてください。その他があれば具体的に記載してください。

- | | |
|--------------------------------|--|
| 1. 相談する必要性を感じないから | |
| 2. 症状をうまく説明できないから | |
| 3. 誰に相談すれば良いことかわからないから | |
| 4. 相談してもいいことかどうかわからないから | |
| 5. 相談して、もし良くないことを言われたら嫌だから | |
| 6. 相談する機会がなかったから(時期を逸してしまったから) | |
| 7. その他() | |

ここからは、あなたが現在体調の変化としてうつ症状を感じていて、クラビットという薬を服用しているという仮定でタブレット端末のアプリケーションを使用して回答していただきます。

次頁のタブレット端末での検索方法に従って使用して下さい。

タブレット端末での検索方法

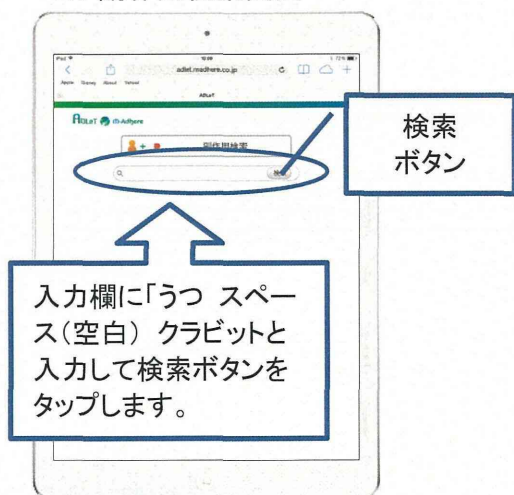
ここからは、タブレット端末を使用します。以下に書かれている順序でタブレット端末を使用して検索を試みてください。まず、タブレット端末のアプリケーションを立ち上げます。

I. トップページ



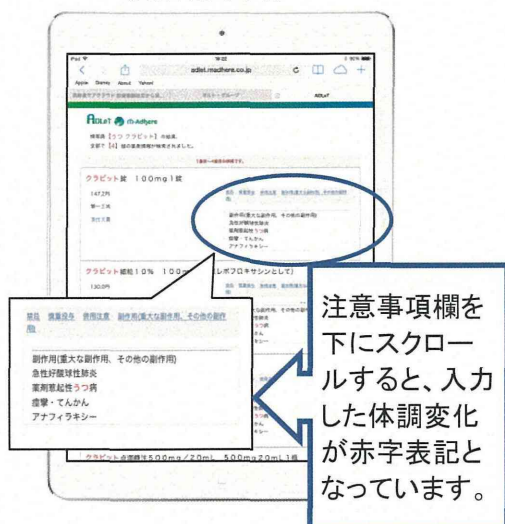
- ① タブレット端末でアプリケーションを立ち上げると左図のI. トップページ画面となります。
- ② 左側にある「人型+カプセルマーク 副作用を調べる」ボタンをタップします
人型は感じている体調の変化、カプセルマークは服用している薬を表しています。

II. 副作用検索画面



- ③ 左図のII. 副作用検索画面となります。
- ④ あなたは今、体調の変化としてうつ症状を感じていて、クラビットという薬を服薬しているという仮定です。
- ⑤ 虫眼鏡マークがある楕円の枠内をタップして入力できるようにします。
- ⑥ 入力欄に「うつ スペース(空白) クラビット」と入力します。「うつ」と「クラビット」の間には必ずスペースを入れて下さい。
- ⑦ 入力が終わったら検索ボタンをタップします。

III. 検索結果画面



- ⑧ 左図のIII. 検索結果画面が表示されました。
- ⑨ 検索結果の右側には薬の注意事項が表示されます。
- ⑩ 注意事項欄は最初、「禁忌」から始まっていますが、文面に軽く触れて上の方に持ち上げていくと(スクロールすると)、入力した体調変化が赤字表記となっています。
- ⑪ この検索結果は、あなたの体調の変化は服用している薬によって起こっているかもしれないことを示唆しています。

この結果を踏まえて、次頁の設問に回答してください。

タブレット端末を使用して検索した結果、あなたの体調の変化は服薬している薬によって起こっているかもしれないことが示唆されました。

設問 6: 検索結果を見て、医師や薬剤師など専門家に相談しますか。当てはまるものに○印をつけてください。その他があれば具体的に記載してください。

1. 相談する
2. 相談してみようかと思う
3. 相談しない
4. その他()

設問 7: 検索結果を見て、服薬をやめますか。

1. やめない
2. 医師や薬剤師など専門家に相談してからやめる
3. 誰にも相談しないでやめる

設問 8: 検索結果が表示されると同時に、どのような文言が表示されたら医師や薬剤師など専門家に相談するきっかけとなるとお考えですか。

(表示されたら良いと思う文言、表現)

[]

(その文言や表現が良いと思う理由)

[]

設問 9: 検索結果を医師や薬剤師などの専門家に相談するとしたら、どのような方法で相談したいですか。

1. 電話で相談したい
2. 電子メール(e-mail)で相談したい
3. 印刷した検索結果を持参して対面で相談したい
4. タブレット端末に保存した検索結果を持参して対面で相談したい
5. その他()

設問 10: 今回使用していただいたような検索方法について、自由にご意見をお書きください。

[]

— ご協力ありがとうございました —

平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金

(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)

研究課題「患者の自覚症状による副作用確認システムに関する研究」

副作用確認システムの要求仕様の検討

研究代表者 望月 真弓 (慶應義塾大学薬学部教授)
研究協力者 北澤 京子 (日経 BP)
倉田 雅子 (納得して医療を選ぶ会)
飯島 正文 (昭和大学名誉教授)
濱 敏弘 (がん研有明病院薬剤部)
丸山 順也 (慶應義塾大学薬学部助教)
小杉 義幸 (東京薬科大学准教授)
岡崎 光洋 (北海道薬科大学准教授)

患者が自身の体調の変化を服用している医薬品に関連付けて、副作用を検索し、薬剤師や医師への相談を容易にするシステムに求められる仕様について議論し検討した。検討に際しては、今年度に本研究班で実施した、患者、薬剤師、福祉職への調査結果に基づいた。以下に、主な検討結果を示し、別紙にシステム要求仕様書を示した。

項目	内容 (変更事項、決定事項)
1. 配色	1-1. 緑を基本とする
2. 個人情報の取り扱い	2-1. 個人情報の記入に対する利用者の同意取得はメール送信時に取得する形にする (今回は実際に使用することを想定しての検討とする)
3. トップページデザインのデザイン	3-1. 副作用検索開始ボタンが目立つように工夫する (四角のボタン) 3-2. 大きなボタンの下部に説明が記載されている形とする 3-3. 利用規約についてアクセスしない利用者の対応は、個人情報を入力しない状態の時はそのまま良い 3-4. 問い合わせ先 (アプリに関する問合せメール) は削除し、WEB サイトへのリンクボタンとする